

『山吹のかをり』は、この演奏会で初めてお客様にお披露目となりました。

この作品は、檜原村の花である山吹と、その村を守り引き継いできた人々のことを想い作られました。

坂本村長にとって、ご多忙なご公務の中での舞台、しかも書き下ろし作品を初演されるというのは本当に大変でいらしたと思うのですが、檜原村に贈られたこの新しい音楽に対して心から愛情を込めて真剣に取り組んでくださり、見たことも聞いたこともなかった曲を、ご自身のものとされていく姿勢とお気持ちは、私たちにはとても嬉しく、また社会人の大先輩としてたくさんのごことを学ばせていただきました。



今回初めてオカリナ+リコーダーという形で演奏の機会をいただいたのですが、オカリナ奏者として今後活動していく上で大切な、多くのことを学びました。

まず、オカリナ同士では許容されるような音程の偏りも、違う楽器とのアンサンブルではそうはいかないということです。日頃から貪欲に正しい音程感を求めていくことの大切さを痛感しました。

また、基本的に全てソロ+伴奏という編曲だったのですが、ソリストの心と音を感じながら、演奏全体の完成度を上げて行けるように全力で寄り添う、こうしたことをフルートに比べるとある意味不自由なオカリナという楽器を使いながらも自然と出来るように、いかようにも対応していける力を身につけることが必須だと感じました。またこの演奏会を通じて、檜原村というところを初めて身近に感じるきっかけとなりました。

また、坂本村長が練習の一環として、俳句を嗜むお知り合いの方に『山吹のかをり』の旋律をご披露されたところ、なんとその方が曲に歌詞をつけてくださったという嬉しいエピソードもありました！

その歌詞が曲に合った素晴らしいものだったため、何としても演奏会でご披露させていただけないかと思い、同じくチャリティー演奏会にご出演された『森の神様合奏団』のメンバーの皆様にもお手伝いいただき、歌付きバージョンも演奏致しました。

お陰様で大団円のうちに会を終えることができ、大変心あたたまる演奏会となりました。この『山吹のかをり』、ゆくゆくは檜原村の皆さんにずっと親しんでいただける曲となったらいいな、と思っています。